

2019 年度 学校関係者評価委員会報告書
および改善方策

学校法人 東京滋慶学園
ベルエポック美容専門学校

2019年6月25日

2019年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録

作成者：ベルエポック美容専門学校 遠藤

日時：2019年6月25日（火曜日）10:00～

場所：ベルエポック美容専門学校 第5校舎 102 教室

参加者：＜委員会メンバー＞

村橋 哲矢 様：団体関係者 東京都美容衛生同業組合 専務理事
雑賀 英敏 様：業界関係者 トニーアンドガイ ジャパン 代表取締役（欠席）
青山 清 様：卒業生代表 アヴェンツファウンデーション 店長
大河 光太郎 様：業界関係者 ネイヴィル 代表
西村 尚美 様：保護者代表
関野 仁史 様：高等学校関係者 第一学院高等学校 キャリアコンサルタント
小泉 由梨 様：地域代表 穂伝表参道町会 会長
松永 英樹 様：業界関係者 アビー代表取締役

＜事務局メンバー＞

中村 道雄：学校法人東京滋慶学園 理事長
岩村 勇：ベルエポック美容専門学校グループ 運営本部長
大谷 啓一：ベルエポック美容専門学校 学校長
三井 真以子：ベルエポック美容専門学校 事務局長
藤本 拓也：ベルエポック美容専門学校 教務部長兼美容師科学科長
黒崎 洋平：ベルエポック美容専門学校 トータルビューティ科学科長
菊地 慶：ベルエポック美容専門学校 ヘアメイク科学科長
加藤 真也：ベルエポック美容専門学校 美容師科通信課程学科長
成木 佳樹：ベルエポック美容専門学校 広報センター長
古川 喜春：ベルエポック美容専門学校 キャリアセンター センター長
東 健一：ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター センター長
遠藤 直美：ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター

10:00 三井局長の号令で開会

10:05 各委員の紹介

10:10 中村理事長挨拶

職業専門実践課程が重要なものになっている。先日、高等教育機関無償化法案が通りこの会議が非常に大事になっている。

皆様に感謝している。忌憚なき意見いただきたい。

10:15 大谷学校長挨拶

業界、地域、卒業生から様々なご意見を伺いたい。忌憚なき意見をいただき、今後の糧にしていきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

10:18 ベルエポック美容専門学校グループ運営統括本部長 岩村挨拶

専門学校については18歳人口がどんどん減少しており、高等教育機関の経営が厳しくなっている時代にいかに選ばれる学校づくりをしていくか、同時に卒業生を業界へ送り出し業界からも信頼される学校が大事になる。また、地域の信頼も大切になる。本日も出席の皆様へ評価をして頂き、我々も貢献できる学校にしていきたい。忌憚なき意見を頂き教育の中に還元していきたい。都内でも最速で400名の定員が埋まる学校になってきているが、学校の魅力作りとして原宿という土地で日本の最先端の文化を発信し続ける街の文化を学校に取り入れ、更に地域と業界に貢献できるように頑張っていきたい。

《資料の確認》

- ・ 会議次第
- ・ 自己評価報告書
- ・ 学校関係者評価委員会 会議資料
- ・ 学校パンフレット
- ・ 2019年ベルエポック4校就職内定実績
- ・ 保護者パンフレット

【学校関係者評価委員会目的の確認】

各学校が自らの教育活動等の成果や取り組みを不断に検証することにより

1. 各学校が、自らの教育活動そのほかの学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
2. 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めること
3. 設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じる事により、教育水準の保証・向上を図ること。

以上の3つが委員会の目的となります。

【評価の実施方法】

1. 各学校の教職員が行なう評価《自己評価》
2. 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価する事を基本として行なう評価《学校関係者評価》
3. 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価《第三者評価》

【職業実践専門課程】

文部科学省告示第 133 号平成 25 年 8 月 30 日

目的：職業に必要な実践かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術について組織的な教育を行なうものを文部科学大臣が認定する学科

本校では美容師科が対象となる

トータルビューティ科、ヘアメイク科については来年に向けて申請準備をしている

認定(抜粋)：

- 専攻分野に関する企業・団体等との連携体制を確保して、授業科目の開設とその他の教育課程の編成を行なっている。
- 企業と連携して、実習、実技、実験または演習の授業を行なっている。
- 企業と連携して、教育に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行なっている。
- 評価を行い、その結果を公表している。
- 評価にあたっては、関係者として企業の役員または、職員を参画させている。
- 企業に対し教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供している。

【学校関係者評価のスケジュール】

- ～ 5 月 昨年度の自己点検・自己評価の実施
- 6 月 「学校関係者評価委員会」
自己評価結果に関する評価と提言
- 6 月～ 本年度事業計画の修正
または次年度事業計画に反映

- ・ 2018 年度 自己点検・自己評価
- ・ 2019 年度 重点目標について

【概要】

学校名：ベルエポック美容専門学校

2000 年 4 月開校

学 科：○美容師科 2 年制

○トータルビューティ科 2 年制

○ヘアメイク科 2 年制

校 舎：第一校舎 東京都渋谷区神宮前 3-26-1

第二校舎 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-57-6

【2018年度重点目標】

<定量目標の説明>

- ・入学者数 400名以上
- ・退学率 6.8%以内
- ・就職率(内定率)100%の実現

<重点項目>

1. 本校が独自に実施する「原宿コラボレーション」(配布資料参考)において、本校と原宿の地域文化・企業との連携を推進し、業界で求められる技術力とコミュニケーション力を持った人材育成ができる教育システムを構築する。
2. 変化の激しい時代で活躍できる「自己変革型」の人材を輩出する為に、人間力を強化し「人徳」と「熱意」を兼ね備え、主体的に行動できるようにしていく。

コラボレーションは年間1200件程の実績があり、多い学生だと年間70件以上のコラボレーションに参加し、そこから就職に結びついている例もある

【達成状況】

- ・入学者 目標：400名 実績：448名(昨年：441名)
- ・中途退学者 目標：55名/812名(6.8%) 実績：55名/812名(6.8%)(昨年：10.2%)
- ・転出者数 実績：3名(2名)
- ・美容師国家試験 目標：100% 実績：95.7%(昨年93.1%)
- ・就職率(内定率)3月末時点 目標：100% 実績：96.6%(311/322)

【学校関係者評価委員会】

2018年度 自己評価内容(抜粋)

《本校の教育理念・目的・教育人材像》

～職業教育を通じて社会に貢献する～

実学教育・人間教育・国際教育

↓

入学生全員がより高い専門性を身に付け、必要とされる資格を取得し
希望する仕事に就き、永続的に活躍する

定員充足 + 健全な学校経営

《目標達成に向けての取り組み》

～全員で学生を見る・知る・対応する～

自己変革型の人材を輩出する為に

- ① 担任業務
- ② シンドローム対策の強化
- ③ 保護者・講師との情報交換強化

《学校運営》

～新しい取り組みや、新規事業にチャレンジし続ける組織～

- ・常にイノベーションの視点を持ち、社会に受け入れられる学科・サービスを開発・提供する

教育活動として職員、講師に「教育指導要領」を配布し周知している
その中に各学科の『養成目的』『教育目標』を文章化し明確に定めている
法制度・業界の人材ニーズ・競合校など環境を毎年調査しカリキュラムの見直しを実施

養成目的・教育目標達成のために体系的にカリキュラムが組まれている
カリキュラム・学年目標・取得目標資格・就職分野を明示

最新の美容を教育に取り入れ行っている

○M・A・C 表参道ヒルズ店の OPEN 前の店舗で最新トレンド研修

○トップサロンゼミ 原宿周辺の人気・有名サロンスタイリストによる授業

○C チャンネル(アプリ)とコラボレーションし、メイク・ヘア・ファッションについて学生プロデュース(自己発信)の動画作成ワークショップを実施

その他学生支援について担任とキャリアセンターが連携し、一人ひとりの学生に対し満足度の高い就職支援を行なっている

社会貢献としてプラチナ会(シニアクラブ)でのネイルケア・カラーアートの実施
地域のお祭り等の参加

【2019 年度重点目標】

- ・入学者数 400 名以上
- ・退学率 5.9%以内
- ・就職率(内定率) 100%の実現

【学校評価意見徴収】

村橋様)

募集の安定をベースに課題の抽出が行われている。目標設定、目標管理が職員全体で取り組まれていると感じる。心配になるのは学校で手厚くしてしまうと就職した後に現実とのギャップで早期退職してしまう懸念も覚えた。また、その部分が自己評価報告書にも現れている。卒後支援を課題として就職先でのサロンワークと、学校での様々な学びをうまく連携させていかななくてはならないと感じた。是非検討してほしい。

藤本)

学内で手厚いサポートをしているからこそ、自分で考え行動するという自己変革型人材育成への課題は確かに感じる。自立した職業人を育てる取り組みを考えていきたい。

まだまだ課題があると感じている。

関野様)

5年連続で定員を埋めているのは、非常に困難な事で日頃の取り組みの成果と感じた。ボランティア活動について自己評価でも低い結果になっている。キャリアの視点からも学んだ事を生かす機会としての研修旅行(海外研修など)でボランティア活動を取り入れても良いのではと感じた。自分自身のミッションと、学校のミッションをすり合わせ自己成長していくかのワークを学生に取り入れると良いのではないかと感じた。

藤本)

海外研修の参加者についても色々取り組みが必要と感じる。

三井)

ボランティア活動はもっと積極的に取り組んで行きたい。原宿地域の清掃活動への参加と担任授業で地域清掃取り組みたい。

小泉様)

地域の美化推進委員会は偶数月の第2日曜日に実施している。250名程の人数で地域住民、近隣企業の方々が参加しており学校の良いアピール又は繋がりが持てる場になるのではないかと是非参加いただきたい。青少年対策委員会のイベント参加や様々な機会が地域だけでもあるので検討して頂きたい。

西村様)

今の美容学校の授業内容に驚いた。とてもうらやましい環境で現在の学生は学んでいる。自分の学んでいた時代とギャップがあるが、ベルエポックは様々な取り組みをされていて良いと感じた。

雑賀様)

宣言通り、退学者も減っている。他の美容学校も含め卒業後、1年・2年で辞めてしまうケースがある一方で誰が見てもダメだと思っていたスタッフが戻ってきたという事例がある。それには学校の先生がサポートしてくれたと言う背景があった。ベルエポックでも卒業後のサポートの仕組みがあると離職は防げるのではないかと感じた。

古川)

卒業後については離職調査を毎年行なっている。今年については全学科あわせて14%の離職率。1年未満で美容の仕事を離れている卒業生を少なくしたい。目標としては10%以内と目標を掲げている。

三井)

卒後フォローの体性を作っていきたい。

松永様)

自分が美容専門学校時代の時代とは全く違う。先生方の熱意が感じられる。

美容学校は、学生に夢を見させる部分も必要であるが就職するとひたすら地味な仕事が多く、そこが何に役たつのか分からなくなる期間が必ずあり、それをのり超えないと夢の実現ができなく非常に難しい。その部分をお店のオーナーや先輩達が導いていかななくてはいけないが、卒後支援で学校の関わりがあると良いように感じた。

新しい時代の教育システムを考えていく時代で、どんどん AI が活躍し人が行なう仕事が無くなる中残るのは哲学とデザインと言われているが、我々美容師はデザインしていかななくてはいけない仕事で長い目で見ると素晴らしい仕事だと言う事を学生達に伝えていかななくてはいけない。夢にたどり着く現実的な部分を学校で教えていく必要がある。

青山様)

生活していく上でお金はとても重要で、収入の不安や奨学金を返していかななくてはいけない学生もいると思う。学校生活の中で卒業後の生活の仕方や仕組みを教えていく事で、職業観や奨学金の返還についても不安が少なくなるのかと思う。

美容師12年くらいやっているが、時代が変わっていると感じる部分がある。

教えている側の熱量が大きく、教わっている側の器が広がっていかない。今後も更にギャップが大きくなり社会的な常識面も専門学校でも教えていく必要がある。

三井)

奨学金は全体の4割活用している。また延滞率の改善にも取り組んでいる。頂いたご意見について取り組んでいきたい。

大河様)

実際に講師やコンテスト審査員で関わる事があり、ベルエポックは楽しい学校だと感じる。

学生対象に撮影の授業をさせて頂き、今の時代の美容師に必要な事として SNS 発信についてなど旬なものを授業に取り入れている。しかし、実際の仕事での厳しさや怒られる事への免疫を育てる必要性も感じる。非常に難しいが学校で楽しさと、現実的な厳しさを伝えながら夢を持たせ続けてあげられる環境を作ってあげられるといい。学校での厳しさが、現場で社会人になり本当に役に立った。

成木)

皆様のご意見を伺う中で感じた事は入学前教育の部分で奨学金・学費についてオープンキャンパス参加の高校生に伝えてはいたが、もう少し具体的に踏み込んで説明をしてあげる、聞いてあげる事が必要だと感じた。学生募集に関しては入学定員を確保出来てはいるが、卒業までの間に辞退者や退学者が出ている。その部分に対しての取り組みを今後も必要と感じた。

加藤)

社会的な常識の部分で、学生対応している中でラインやメールのみで解決してしまい、電話連絡はしないという事が良くある。本来はきちんと自分の口から話すべき事についても、ラインだけで終わらせてしまう。そういった事をきちんと学校でも指導していく必要性を重く感じた。

古川)

様々な分野の運営をしており各学校で離職調査をしているが、美容業界については他業界に比べまだ離職率が高い。企業系の分野では数%、医療系の分野では0%の離職率。長年キャリアセンターで美容分野を担当しているが離職に対してどうアプローチしていくか。調査だけではなく、どこまで学校が関わってフォローできるのか。その部分も学校の評価として見られてくる時代になると考えている。他校にはない卒業後のフォローの仕組みの支援体制を作っていきたい。

菊地)

ヘアメイクの業界でも離職の改善に取り組んでいきたい。キャリア教育の取り組みで1年生には担任授業を通してヘアメイクの仕事理解を中心に行なっている。高校でのキャリア教育の取り組みについて伺いたい。

関野様)

通信課程の学生に対して、セルフプロデュース講座として自分自身を知る、自分自身の感情をどのようにコントロールしていくかなど、自分自身を見つめ直す時間を多く取っている。インターネットでライブ配信し生徒達はそれを見ながら授業を受けている。もう一つの取り組みとして中々進路決定が出来ない生徒に対してキャリアデザインコースを設置し、1年・2年で自分の将来を設定していく取り組みを行なっている。日常生活、時間管理、物の管理についてなど、困難な状況をどのように乗り越えていくのか「レジリエンス」という考え方を授業で取り組んでいる。

菊地)

自分自身を知る事が大事だと感じた。参考にさせて頂きたい。

黒崎)

皆様のご意見を聞きながら感じたのは、我々は在学中にどんな事を教えられているのか?と思った。就職してからどんな事が待ち受けているのか具体的な事を伝えていくことが大切。また卒業生との関わりについて、卒業生が業界で働いている姿を見に行くなど関わった職員が見に行く時間を増やしている。そこで卒業生の声や業界の情報を聞き関係性を高めて行く事も出来ると感じた。毎年ボランティア活動で表参道地域の婦人会(プラチナ会)でネイルボランティアをさせて頂いている。その時の学生の表情がとてもイキイキしていた。自分がやった事で人に喜んでもらう機会となり仕事のやりがいになっていく。そのような機会を多く設けていきたいと思っている。

藤本)

専門卒業後ビジョンを設定し自分で歩いていくにあたり、ビジョンを持って頑張れる人と、そうでない人の違いは何なのだろう？と考えていた。その部分について業界の皆様にご意見を伺いたい。

雑賀様)

サロン側の体制も変えていかなくてはいけないと感じている。サロンに就職したら頑張れる子だけついて来いみたいな雰囲気がまだまだあり、サロン側の整備も必要と感じた。みんなスイッチの入りが違うのでそこをどうやって見つけていくのが課題と感じている。

人に喜んで貰う仕事を選んでいるはずなので、その部分を刺激していくようにしている。

人を変えてアプローチしていくのも効果があるのではないかと感じる。

松永様)

漠然としているが、課程が厳しくても自分の財産になると思える人は伸びる。自分を客観視できずに、人のせいにしてしまう子は厳しい。人によって伸びるタイミングが違う。

橋本様)

自己肯定感を持てるかどうかの違いではないか。辞める理由は、経済的、労働時間が長い、メンタル面で人との関わりが理由に挙がってくる。離職防止の為に我々で取り組んでいる例ではヘア以外のまつ毛エクステンションなどの強みを身に付ける、もう一つは社会貢献で自分を認められる。訪問美容、福祉美容などで自己肯定感を持てるきっかけ作り。その結果離職について僅かではあるが改善の傾向があった。

東)

学費や奨学金について制度の改正等があり、引き続き出来るだけ手厚いサポートをしていきたいと感じている。

三井)

今回、皆様から頂いたご意見を反映させながら事業計画を作成していきたい

特にボランティア、社会貢献の部分は学校として力を入れ地域の信頼を得られるように取り組んでいきたいと感じた。

以上で、2019年度第1回学校評価委員会を終了いたします。

次回10月29日(火)10:00～ 学校評価委員会実施